



～おもいやり算～

校長 大野 和孝

梅雨の季節になり、蒸し暑い日があったり、急に雨が降ったりするなど不安定な天気が続いていますが、子供たちは、元気いっぱい、笑顔がはじけています。

私は、全校に向けて話をするとき、平方小の合言葉「あ」…あいさつをしっかりと、「い」…命を大切にす、「う」…運動を頑張る、「え」…笑顔いっぱいの学校を、「お」…終わりまでしっかりと、に関連付けて話をするようにしています。先月の全校お話し会では、「おもいやり算」を紹介しました。「笑顔いっぱいの学校」にするために、欠かせないものが「おもいやり算」です。新学期が始まり、各学年、学級においては新たな人間関係が作られてきたころだと思います。新たな人間関係に慣れてきたころに、友達との関係に甘え、自分本位に物事を考えてしまい、思わぬトラブルを引き起こす原因になることがあります。この時期にあらためて人に対する思いやりについて考え、みんな仲良く笑顔輝く平方小にしていきたいとの願いを込めて話をしました。

学校では、この「おもいやり算」を活かして生活している子供たちに多く出会います。新体力テストのシャトルランの際、体育館から響いてくる「〇〇さんがんばれ！」の声。休んだ子の当番の仕事は快く引き受けてくれる子供たち。先日のつばめ・あおぞら学級のなかよし合宿では、友達同士で助け合って布団を敷いていたり、高学年の子が低学年の子の手をひいて励ましながら歩いたりする様子が見受けられました。大変心が温かくなりました。「おもいやり算」は算数のようにすぐ答えが出ない時もあるかと思いますが、子供たちのよい行いを認め、ほめながら、だれもができる「おもいやり算」にしていきたいと考えています。

～おもいやり算～

- + 「たす」けあうと大きな力に
- 「ひき」うけると喜びが生まれる
- × 声を「かける」と一つになれる
- ÷ いた「わる」と笑顔がふえる

～地域と関わり合いながら～

2年生は生活科で学校周辺にはどんなものがあるのか、まち探検を通じて興味関心を広げています。3年生では、社会科や総合的な学習の時間で、地域と自分の暮らしの関わりや、昔からある地域の建物や祭りなどについて調べたり、考えたりする学習をしています。学年が上がるにつれ、学校周辺、上尾市、埼玉県、日本の様子というように学習対象の範囲が広がっていきます。

先日、5年生の授業を参観しました。沖縄県の人々の暮らしの様子について学習していました。子供たちは、雨温図や建物の様子から、自分たちとの暮らしの違いや生活の工夫について発言していました。実際にその場で生活していなくても、資料を読み取ることで人々の暮らしについて考えることができていました。

平方小には、昔の生活を知ることのできる地域の史料がたくさんあります。また、地域には歴史を知ることのできる建物や祭りも残されています。7月14日（日）には、埼玉県指定無形民俗文化財に指定されている祇園祭「どろいんきょ」が行われます。上尾駅を利用する際、ひときわ目立つ「どろいんきょ」の看板を見ると、誇らしく感じます。

これから、子供たちの学びは広がっていきます。まず、地域に関心を持ち愛着を感じることを学びを深めていくうえで大切だと考えています。地域の方々から愛されている学校だと自負しています。地域を愛する子供たちであってほしいと思っています。